

補助金等支出明細書

1. 補助金等の名称	廃棄物処理等科学研究費補助金		
2. 事業の目的及び内容			
(1) 目的	<p>PCBは残留性有機汚染物質であり、長期残留、生物濃縮、揮散異動、毒性の4点の特性を持つことから、長期保存されているPCB廃棄物については、安全かつ確実に処理することが早急に求められている。また、PCB廃棄物による環境汚染は地球規模で進行しており、国際的課題として対処していくことが共通認識となっている。このため、我が国においては、平成13年にPCB廃棄物特別措置法が制定され、現在、国による処理体制の整備により、PCB廃棄物を平成28年度までに処理が完了する取組がなされている。ところがこれとは別に、平成14年に低濃度PCB汚染物が多量に存在することが判明し、その処理の見通しも立っていない。これらの処理は喫緊の課題となっている。本研究は、既存の産業廃棄物焼却施設を用いた実証試験の実施により、処理条件とPCB分解率の相関や環境への影響を明らかにすることで、低濃度PCB汚染物の早期処理の実現を図る。</p>		
(2) 具体的な内容	<p>本研究は、現在設置・稼働している産業廃棄物焼却施設を用いて、低濃度PCB汚染物の焼却実験を行う。なお、分析に当たっては、異性体を含めた高感度かつ高精度の分析を行う。</p> <p>1 燃烧温度及び燃烧ガス滞留時間(処理条件)並びにPCB分解率の相関に関する研究。 低濃度PCBを含んだ汚泥やウエス、防護服、活性炭等を産業廃棄物焼却炉へ容器等に入れ、投入して、燃烧ガス温度1, 100℃以上あるいは850℃以上で、また、ガス滞留時間を変えて焼却することにより、投入する汚染物等や排出される排ガス、排水、処理後の残渣等に含まれるPCB濃度を分析・評価し、処理条件とPCB分解率の相関を明らかにする。</p> <p>2 排ガス、排水、処理後の残さ等の性状に関する研究 PCBを焼却した場合は、ダイオキシン類の生成が考えられるので、焼却施設から排出される排ガス、排水、処理後の残さ等に含まれるPCBやダイオキシン類等の濃度を分析することにより、処理条件との相関を明らかにし、生活環境への影響を評価する。</p> <p>3 処理施設周辺の環境影響に関する研究 低濃度PCB汚染物の処理に伴う周辺環境への影響を確認するため、周辺大気等におけるPCBやダイオキシン類濃度等を分析し、処理条件との相関を明らかにする。</p> <p>4 作業環境に関する研究 低濃度PCBを含んだ汚泥やウエス、防護服、活性炭等やそれが封入されている容器を取り扱う作業員への影響を把握するため、実際の作業場所でのPCBやダイオキシン類等を測定し、作業員への安全性に係る研究の一助とする。</p>		
3. 交付先の公益法人の名称	財団法人産業廃棄物処理事業振興財団		
4. 交付実績額			29,101千円(A)
5. 補助金等における管理費			
(1) 人件費			446千円
(2) 一般管理費			200千円
(3) その他の管理費			
	内容	金額	
			千円
			千円
	内容		千円
	合計		646千円
6. 外部への支出			
(1) 外部に再補助・再委託等されているものに関する支出			
	支出内容	支出先	金額
			千円
			千円
			千円

	合計		千円(B)
(2)			
	支出内容	支出先	金額
			千円
			千円
			千円
			千円
	合計		千円
7.	その他		
	内容		金額
	業務費		28,455 千円
			千円
	合計		千円
8.	再補助・再委託等の割合		0%(B/A)